

Top Message

代表取締役社長 **山田 慶太**



株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに平成30年9月期における当社の事業概況、および今後の見通しについてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調を維持しました。

一方で、米国の保護主義的な通商政策による貿易摩擦の動向や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動が懸念されることから、先行きは不透明な状況となっております。

当社の主要顧客の属する電子部品・デバイス工業分野の生産は、全体として前期を上回る水準となりましたが、海外のスマートフォン生産の減速の影響により生産が前年を下回った分野も見られました。

貴金属・銅の価格は年度後半に米国金利の上昇等により前期を下回りましたが、当連結会計年度の平均では前期を上回る水準となりました。

このような環境のなか、当社では、既存事業の強化と効率化に取り組むとともに、引き続き新たな技術開発に挑んでおります。

既存事業では、既取引先の深耕や新規開拓とともに、貴金属材料の供給や光触媒の販路拡大を進めるほか、製造工程の自動化・ロボット化等の効率改善に取り組みました。

新たに推進しているレアメタル事業では、製品の開発と販売先の拡大に取り組みました。このうち、今後成長が期待される電子部品向け原料を開発し販売先が拡大しました。しかしながら、レアメタル製品の需要が当初予想を下回ったことから、業績への寄与は翌連結会計年度以降となりました。

2019年9月期は、電子部品・デバイス分野の生産は弱含みであり貴金属の価格も当連結会計年度を下回ると予想しており、やや厳しい局面を迎えることとなりますが、レアメタル・レアアースおよび光触媒製品の販売拡大への下地ができております。

既存事業の厳しい環境のなかでこそ、事業の効率改善により企業体質の強化をすすめ、安定成長への基盤づくりを進めるとともに、販売先の開拓、新規製品の開発に注力し、早期に業績に貢献できるよう事業を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

当連結会計年度の概況

【当連結会計年度は増収減益】

当連結会計年度の連結業績は、貴金属及び環境事業での販売数量の増加と販売価格の上昇により、売上高は8,765百万円（対前期4.6%増）となりました。

営業利益は337百万円（対前期62.0%増）。経常利益は333百万円（対前期60.1%増）。親会社株主に帰属する当期純利益は234百万円（対前期14.1%減）となりました。

【業績の見通しについて】

当社の主要顧客の属する電子部品・デバイス工業分野の生産は、スマートフォン需要の一巡による減産が継続すると想定しており、金の取扱数量はやや減少すると見込んでおります。貴金属の価格については、米国経済が金融緩和縮小後も堅調に推移しており、金利の動向を考慮して、当連結会計年度に比べ低い水準になると想定しております。また、銅の価格についても、低い水準になると想定しております。

このような環境の見通しのもと、金の取扱数量と価格は当連結会計年度を下回るものの、新たに推進しているレアメタルの販売数量が増加し、売上高は微減となる見込みです。

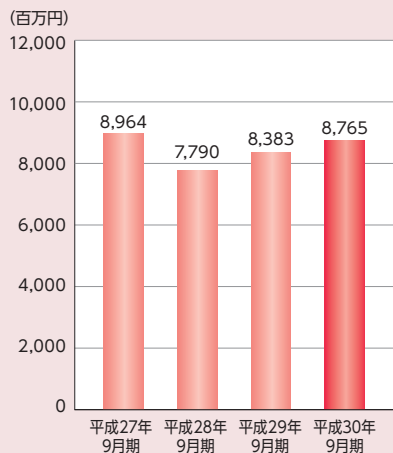
営業費用は、これまでの貴金属・銅のリサイクル分野に加え、今後、レアメタル等の原料供給分野が増加していくことから、品質管理を含めた管理部門の強化を図るため、一過性のものを含め販管費が増加し、営業利益は減少する見通しです。

当社グループはお客様への提案力の強化による既存事業の強化、レアメタル分野において研究開発を進め、企業体質の強化を図ってまいります。

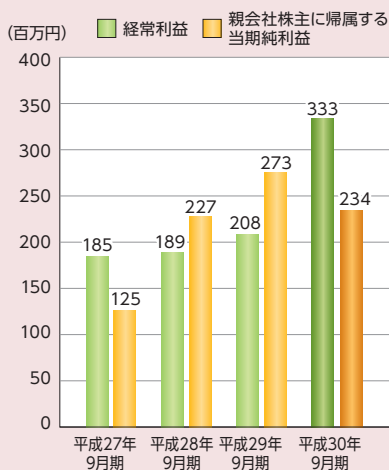
以上により、翌連結会計年度の当社グループの売上高は8,743百万円（対当期0.3%減）、営業利益は248百万円（対当期26.6%減）、経常利益236百万円（対当期29.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は180百万円（対当期23.3%減）を見込んでおります。

なお、業績予想の算出基準となっている金属の想定価格は、金：4,200円/g、銅：650円/kgとしております。

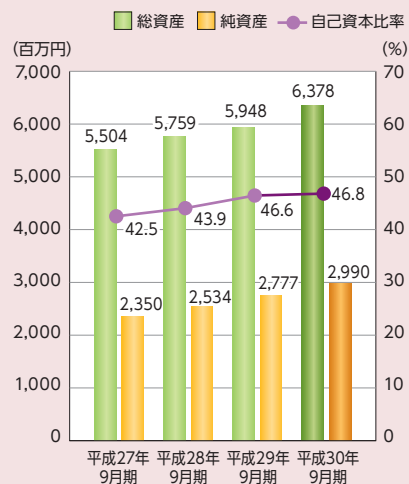
■ 売上高



■ 経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益



■ 総資産、純資産、自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	当期末 (平成30年9月30日)	前期末 (平成29年9月30日)		当期末 (平成30年9月30日)	前期末 (平成29年9月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債	2,060	1,485
現金及び預金	1,210	1,257	固定負債	1,326	1,686
受取手形及び売掛金	452	401	負債合計 ②	3,387	3,171
棚卸資産 ①	1,112	763	純資産の部		
その他	288	207	株主資本		
固定資産			資本金	504	504
有形固定資産	2,995	3,002	資本剰余金	354	352
無形固定資産	23	24	利益剰余金	2,117	1,920
投資その他の資産	295	291	自己株式	△ 9	△ 13
資産合計	6,378	5,948	その他の包括利益累計額	18	8
			新株予約権	1	2
			非支配株主持分	4	2
			純資産合計	2,990	2,777
			負債純資産合計	6,378	5,948

Point ①

棚卸資産は、主に貴金属事業において増加しております。

Point ②

負債合計は、借入金が162百万円、借入金地金が159百万円、繰延税金負債が38百万円増加し、未払法人税等が134百万円減少しています。

Point ③

主な収入要因は、税金等調整前当期純利益の322百万円、減価償却費の233百万円です。
主な支出要因は、棚卸資産の増加額346百万円、法人税等の支払額187百万円です。

Point ④

主な支出要因は、有形固定資産の取得による支出269百万円です。

Point ⑤

主な支出要因は、長期借入金の返済による支出195百万円、配当金の支払額38百万円です。
主な収入要因は、短期借入金の純増額356百万円です。

主なセグメントの状況

■ 連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成29年10月1日～ 平成30年9月30日)	前期 (平成28年10月1日～ 平成29年9月30日)
売上高	8,765	8,383
売上原価	7,035	6,777
売上総利益	1,729	1,606
販売費及び一般管理費	1,392	1,397
営業利益	337	208
営業外収益合計	26	35
営業外費用合計	30	35
経常利益	333	208
特別利益合計	—	159
特別損失合計	11	0
税金等調整前当期純利益	322	367
法人税等合計	84	96
当期純利益	237	270
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	2	△ 3
親会社株主に帰属する当期純利益	234	273

■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

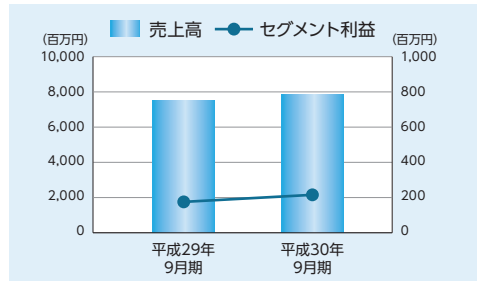
（単位：百万円）

	当期 (平成29年10月1日～ 平成30年9月30日)	前期 (平成28年10月1日～ 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー ③	120	200
投資活動によるキャッシュ・フロー ④	△ 281	△ 9
財務活動によるキャッシュ・フロー ⑤	110	△ 299
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 47	△ 109
現金及び現金同等物の期首残高	627	736
現金及び現金同等物の期末残高	579	627

貴金属事業

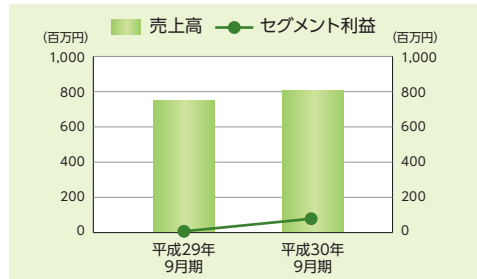
金の取扱数量は、海外のスマートフォン生産の減速の影響により前期を下回りましたが、他の貴金属等製品の数量が増加したこと、貴金属相場が前期を上回る水準で推移したことから、売上高は7,849百万円（対前期4.3%増）となりました。

セグメント利益は、取引内容の見直し、製造工程の効率改善により203百万円（対前期15.2%増）となりました。



環境事業

主力製品である銅ペレットおよび薬品の販売数量が前期を上回り、銅の販売価格も前期を上回ったことから、売上高は801百万円（対前期6.8%増）、セグメント利益は96百万円（前期は1百万円）となりました。



レアメタル・レアアース事業を推進しています。

当社のいわき工場において、レアメタル・レアアースをリサイクルする再生事業に取り組んでおります。販売が進んでいる光学ガラス向けの製品については、取引の拡大に向けた営業活動を行っております。

レアメタル・レアアースは自動車、IoTをはじめとする電子部品、航空機など、最先端技術を要する今後の成長産業に用いられています。当社では、そのうち、電子部品向け原料の開発に取り組むとともに、取引先の製品評価試験を開始いたしました。少量からの販売を開始し、取引先の原料調達コストの低減に貢献しております。

取引先の生産コストの低減に向けた技術開発の注力と、製造ラインの拡大と安定稼働に向けた取り組みにより、製品の販売の拡大を目指し、早期の業績への貢献するよう推進しております。



システム事業は新しいシステム提案を展開しております。

当社のシステム事業は、計測データ処理システム『Mr.Manmos』を主力に事業を展開し、取引先の工場の品質管理のシステム化に貢献しております。無線送信ユニット Beacon を活用した『B-Chronus』につづき、生産工場などの業務効率化に貢献する新製品を開発しております。

IoT、AI、ロボットなどの工業技術の進化により、人々が働く環境の自動化が加速しています。それに伴い、機械の状態や、完成した部品・製品をチェックする技術など人に求められる作業も変わりつつあります。

新製品は、ヘッドマウントディスプレイを通して見えた文字情報のダイレクト入力や、音声変換による数値データ入力など、入力に関する作業を省力化し、ミスを防止するツールとして開発しております。

当社のシステム事業においても、お客様の要望に応えたシステム開発を継続して行っております。

新製品イメージ図



Information (平成30年9月30日現在)

会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設立年月日	昭和44年8月25日
資本金	504,295,600円

事業内容

- ①貴金属事業 / 金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理および販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生および販売
- ②環境事業 / 塩化第二鉄液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、光触媒の製造・販売
- ③システム事業 / 自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発および販売
- ④その他の事業 / 工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

役員

(平成30年12月14日現在)

代表取締役社長	山田 慶太
取締役執行役員	佐久間良一
取締役執行役員	山田 浩太
取締役	佐久間幸雄
取締役(監査等委員長)	野納 敏展
取締役(監査等委員)	熊谷 巧
取締役(監査等委員)	三崎 秀央

(注) 取締役(監査等委員)熊谷巧氏および三崎秀央氏は、社外取締役であります。

株式の状況

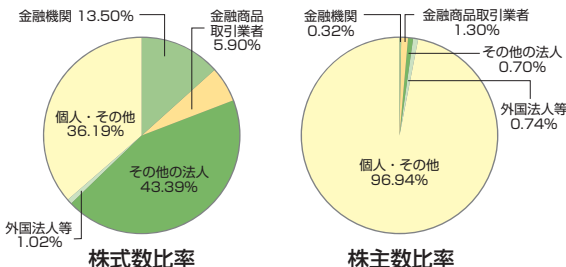
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式17,161株を含む)
株主数	2,158名

大株主の状況

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	1,051,030	41.13
株式会社常陽銀行	90,000	3.52
株式会社東邦銀行	81,100	3.17
日本生命保険相互会社	72,500	2.84
白岩 政一	52,000	2.04
第一生命保険株式会社	50,000	1.96
東京中小企業投資育成株式会社	50,000	1.96
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	35,900	1.41
株式会社新生銀行	33,400	1.31
アサカ理研社員持株会	26,900	1.05

(注) 当社は自己株式(17,161株)を保有しておりますが、議決権がないため、上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(17,161株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日	特別口座の 口座管理機関	東京証券代行株式会社
配当金受領 株主確定日	9月30日 なお、中間配当を実施するときは3月31日	同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120-49-7009(通話料無料)
定時株主総会	毎月12月	上場証券取引所	東京証券取引所
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711(通話料無料) [郵送先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

ご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行が口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



こづゆ

祝い事には欠かせない会津を代表する郷土料理

干し貝柱でだしをとり、里芋や人参、糸こんにゃくなど具だくさんでつくる煮物。それを小さな朱塗りの手塩皿(てしおざら)に盛った会津を代表する郷土料理です。呼び方も材料も地域によって異なりますが、会津の広い地域でそれぞれの家庭に伝わる味として、また冠婚葬祭に欠かせない料理として今も多くの人々に愛されています。

福島の旅が丸わかり!! で検索

うつくしま観光プロモーション推進機構 (公益財団法人福島県観光物産交流協会 内)

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号 (コラッセふくしま7階)

TEL: 024-525-4024 FAX: 024-525-4087